

# 空調タイムス

THE AIR-CONDITIONING TIMES

購読料一ヵ年19,800円 発行日毎週水曜日

## 日本熱源システム

代表取締役社長

原田 克彦



当社は近年、環境性と省エネ性を両立した自然冷媒冷凍機の市場浸透に注力しています。昨年、空冷式CO<sub>2</sub>冷媒冷凍機「スーパーグリーン」において、新型コロナウイルスの影響も小さく、受注も

比較的順調に推移しました。物流業界で冷凍冷蔵倉庫の建設が進むのに伴い、お客様が地球温暖化防止の観点から、CO<sub>2</sub>冷凍機を選択してくださる機会が増えているためです。

## CO<sub>2</sub>冷凍機の大型化と多用途化へ

また食品業界で

も、冷凍食品を製造するフリーザーのライン等で導入が増えています。食品業界向けにはフラインチラーや冷水チラー、マーガリン製造用等、多種多様なタイプ

に、導入が進んでいます。昨年当社のCO<sub>2</sub>冷凍機の導入が進んだ背景には、環境省の省エネ型自然冷媒機器補助事業で、当社申請案件が100社採択されたことがあり、今年もそうしたバランスを取り、CO<sub>2</sub>冷凍機の普及を進めたいと考えています。足元で進めているのはCO<sub>2</sub>冷凍機の大型化です。

従来は30、60馬力が主力でしたが、昨年は90馬力「F1

3」が非常に好評で、昨年受注量の半分近くをF13が占める結果となりました。冷凍機の大型化により台数を減らして工事費も削減し、お客様のコストを低減できるためです。次は更に大型の120馬力「F14」の開発に取り組んでいます。

こうした中、当社は今年も自然冷媒冷凍機を中心に、しっかりと市場に提案していくと共に、世界の前列に囚われず、新たな用途開発にも取り組んでいきます。

業は大きな意味を持っていきます。当社のCO<sub>2</sub>冷凍機は単に環境性に優れるだけでなく、高い省エネ性を有し、導入先では25〜40割の省エネ（R22冷媒機比）が実証されています。あわせて補助金を活用し、導入コストを低減できるためです。次は更に大型の120馬力「F14」の開発に取り組んでいます。新しいコロナが流行する中で、地球温暖化防止の世界的流れは止めようがありません。食品業界や製薬業界では、企業グループ全体でCO<sub>2</sub>化する動きが増えており、同じグループでも水平展開で導入に至るケースが増えています。